

議事要旨(3) IASBディスカッション・ペーパー「動的风险の会計処理：マクロヘッジに対するポートフォリオ再評価アプローチ」へのコメント対応

冒頭、小野委員長より、IASBディスカッション・ペーパー「動的风险の会計処理：マクロヘッジに対するポートフォリオ再評価アプローチ」（以下「本DP」という。）へのコメント対応について、今回はコメントの方向性に関する審議を行う旨の説明を行った後、板橋ダイレクターより[審議事項(3)]に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な質問や意見と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- ある委員より、次の発言及び質問があった。
 - 本 DP の質問 25 について、金利リスク、為替リスクに加え、商品価格のリスクに対してもポートフォリオ再評価アプローチ (PRA) を適用できないか。例えば商社では、原料など売り買い両方のポジションが建つ商品に対し、ネットポジションでリスク管理を行うケースがある。
 - 本 DP の質問 26 について、外貨建投資の為替換算調整勘定 (TA) に対するヘッジを行う企業は、OCI を利用したヘッジを行うニーズが想定される。

これに対して、事務局より、以下の説明があった。

- 質問 25 は実際の事例を確認しながら、コメント案に含めるか検討をしたい。質問 26 は非有効部分の取り扱いを検討した上で、コメント案に含めるか検討したい。

- ある委員より、次の発言及び質問があった。
 - 本 DP の質問 15 について、現時点でサブポートフォリオ・アプローチか比例的アプローチのいずれかに絞り込む事は反対である。例えば保険会社では、リスク軽減のためにヘッジ活動を行っても、保険負債のデュレーションと金利スワップのデュレーションの差を十分に詰められなければ、PRA はかえって純損益を変動させる。PRA の対象ポートフォリオの設定には、サブポートフォリオ・アプローチは使えない懸念がある一方で、比例的アプローチが良いとも言えない。
 - 本 DP の質問 4 (C) について、十分なガイダンスを設定できるかという点に対して懐疑的であるため、「十分なガイダンスを設ける事を前提に行動予測を織り込む」というコメント案に反対である。
 - 本 DP の質問 25 について、為替リスクだけに言及し、その他のリスクについて言及しないのであれば、それに対する説明を強化して欲しい。
 - 本 DP の質問 26 の論点は PRA による再評価損益を OCI に計上することは有用か、という点。OCI を通じたヘッジ会計を行いたい場合のニーズにはマッチすると思われるため、「不要」とコメントするのであれば、誤解がないようにする必要がある。

これに対して、事務局より、以下の説明があった。

- 質問 15 について、事務局では両方のアプローチを検討してきたが、大手金融機関のリスク管理方法として、比例的アプローチは事例が余りなかった。
- 質問 4 (C) について、専門員会でも行動予測の考慮には重要な判断が伴い、信頼性のある測定が可能かという懸念されており、行動予測の考え方をそのまま取り入れるのは難しい。IASB が取り入れるのであれば、信頼性・検証可能性を確保するためのガイダンスを設けることが前提と考えている。
- 質問 25 については、他の委員からの要望も踏まえ、金利・為替以外のリスクについて言及するかを引き続き検討したい。
- 質問 26 については、誤解なきようコメント案を修正したい。

■ ある委員より、次の発言があった。

- 本 DP の質問 15 及び質問 26 については、コメント案に賛成である。
- 本 DP の質問 4 (C) については、行動予測は検証可能性が難しいと考えられるものの、日本および欧米の銀行ではコア要求払預金に対するヘッジに関するニーズが高いため、論点として取り上げて欲しい。
- 本 DP の質問 25 については、金利リスク、為替リスク以外のリスクも取り上げて欲しい

以 上